

1. 山城 2. 石垣 3. 万里の長城 4. 元寇防塁

1. 現世での利益や病気平癒を祈る呪術的な側面が、戦場での加護を求める武士に好まれたから。

2. 華やかな建築や美術を重視する教えが、新興勢力である武士の権威を高めるのに有効だったから。

3. 厳しい修行を通じて自己の精神を律する姿勢が、生死をかけて戦う武士の気風に合っていたから。

4. 念仏を唱えるだけで救われるという簡潔な教えが、多忙な武士の生活に適していたから。

1. 承久の乱では獲得した領地が恩賞として配られ、元寇後には北条氏が守護を務める国の割合が増えました。	2. 承久の乱と元寇の両方で十分な領地が恩賞として配られ、御家人の権力が強まりました。	3. 承久の乱後に御成敗目目が定められ、元寇後には御家人の借金をすべて帳消しにする徳政令が永久に実施されました。	4. 承久の乱では新しい領地が得られず恩賞が不十分でしたが、元寇では北条氏の地位が低下しました。
---	---	--	--

1. 京都所司代を京都に設置し、天皇や公家の行動を制限するための法度を運用した。
2. 引付衆を鎌倉に設置し、御家人たちの間で急増していた領地争いの裁判を迅速に行わせた。
3. 六波羅探題を京都に設置し、朝廷の動きを監視するとともに西国の武士の統制を強化した。
4. 守護・地頭を全国に配置し、軍事・警察権の行使と年貢の徴収を確実に行わせた。

1. 元の襲来に備えるため、幕府の強力な統制下で九州の沿岸警備に従事した。
2. 生活に困窮した武士や新興の農民などが加わり、荘園領主に年貢を納めることを拒んだ。
3. 幕府から正式な役職として任命され、公領や荘園の管理や警察の役割を担った。
4. 朝廷から東北地方の統治を任せられた独自の有力な武士団であり、広大な領地を所有した。

1. 防人 2. 御家人 3. 地頭 4. 悪党

1. 浄土真宗 2. 時宗 3. 浄土宗 4. 臨濟宗

1. 最澄が伝えた天台宗 2. 法然が伝えた浄土宗 3. 空海が伝えた真言宗 4. 栄西が伝えた禅宗（臨済宗）

1. 鎌倉幕府の将軍による独裁体制を確立し、執権の権限を制限するため	2. 生活に困窮した武士を救済するため、売却された領地を無償で取り戻す権利を認めるため	3. 御家人たちの領地をめぐる争いを、武士社会の慣習などに基づいて公平に裁判するため	4. 律令を強化し、朝廷の公家や寺社が持つ特権を武士にも等しく与えるため
------------------------------------	---	--	--------------------------------------

1. 荘園や公領ごとに配置され、土地の管理や年貢の徴収、地域の警察の役割を担った。	2. 将軍の補佐役として鎌倉に置かれ、幕府の政務や裁判の指揮を担った。	3. 承久の乱の後に京都に置かれ、朝廷の監視や西国の武士の統括を担った。	4. 国ごとに配置され、国内の御家人の統制や軍事、警察の役割を担った。
---	-------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------

1. 随筆：枕草子 2. 軍記物語：平家物語 3. 紀行文：おくのほそ道 4. 随筆：徒然草

1. 室町幕府の管領にならって、将軍の補佐役の権限を強める改革が行われたから。
2. 源氏の正統な将軍が3代で途絶えた後、北条氏が将軍を補佐する立場として実権を握ったから。
3. 元寇の際に西国の御家人を統括するため、北条氏が九州に派遣されて権限を強めたから。
4. 後鳥羽上皇が幕府を倒すために挙兵した際、朝廷の役職として執権が新設されたから。

1. 大規模な検地を実施するにあたり、寺院に土地の測量を依頼するなど実務的な協力関係があったため。

2. 座禅によって自力で悟りを目指す教義が武士に好まれ、禅宗が政治権力と深く結びついていたため。

3. 兵農分離を進める幕府が、有力な農民を統制するための精神的な支柱として禅宗を利用したため。

4. 念仏を唱えれば誰でも救われるという教えが急速に広まり、将軍もその流行を取り入れたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 元寇防壁	一度目の侵攻である文永の役の後、鎌倉幕府は次の襲来を想定して博多湾の海岸に「元寇防壁（石築地）」と呼ばれる石造りの防壁を築きました。これにより、二度目の弘安の役では元軍の上陸を阻止し、防衛において大きな役割を果たしました。
問2	答え 3 厳しい修行を通じて自己の精神を律する姿勢が、生死をかけて戦う武士の気風に合っていたから。	禅宗は座禅によって自らの力で悟りを開こうとする「自力」の教えです。このストイックな修行形態や自己を律する精神性が、武芸の鍛錬や戦場での死生観と結びつき、北条氏をはじめとする多くの武士から支持されました。これが後の武士道精神の形成にも影響を与えています。
問3	答え 1 承久の乱では獲得した領地が恩賞として配られ、元寇後には北条氏が守護を務める国の割合が増加しました。	承久の乱では敗れた上皇側の所領を没収して御家人に恩賞として与えることができたが、防衛戦であった元寇では新たな領地が得られず、御家人に十分な恩賞を与えることができませんでした。また、元寇の危機を通じて北条氏への権力集中が進み、北条氏が守護を務める国の割合が増加していきました。
問4	答え 3 六波羅探題を京都に設置し、朝廷の動きを監視するとともに西国の武士の統制を強化した。	承久の乱において、後鳥羽上皇を中心とする朝廷軍を破った鎌倉幕府は、それまで支配力が弱かった西国への影響力を強める必要がありました。そこで、朝廷の政治を監視し、西国の武士を統制・裁判するために「六波羅探題」を京都の六波羅に設置しました。江戸時代に置かれた「京都所司代」や、幕府成立時に設置された「守護・地頭」との時期や役割の違いを区別することが重要です。
問5	答え 2 生活に困窮した武士や新興の農民などが加わり、荘園領主に年貢を納めることを拒んだ。	悪党は、幕府の統制が弱まる中で各地に現れました。彼らは荘園領主による支配に抵抗し、年貢を差し押さえるなどの行動をとりました。この悪党の勢力は、後に後醍醐天皇による倒幕運動（楠木正成など）と結びつき、鎌倉幕府を滅亡へと追い込む重要な社会的要因の一つとなりました。
問6	答え 4 悪党	鎌倉時代後半になると、従来の社会秩序が乱れ、幕府や荘園領主に対して公然と反抗する勢力が登場しました。彼らは既成の権威を否定する「悪（強い、恐ろしい）」存在としてこのように呼ばれ、年貢を奪ったり武力衝突を繰り返したりすることで幕府の支配体制を揺るがしました。後の南北朝の動乱においても重要な役割を果たすこととなります。
問7	答え 2 時宗	一遍が時宗の教えを広める際、各地の交通の要所や、商業活動が活発化していた定期市などを訪れたことが背景にあります。農業生産力の向上によって各地で「三斎市」などの定期市が開かれるようになった社会状況を、一遍は布教の場として効果的に活用しました。
問8	答え 4 栄西が伝えた禅宗（臨済宗）	栄西は鎌倉時代初期に宋へ渡り、座禅によって自ら悟りを開くことを目指す「禅宗（臨済宗）」を日本に伝えました。自分の力で厳しい修行に励むという禅の教えは、当時の新興勢力であった武士の気風に合い、鎌倉幕府の保護を受けて発展しました。また、栄西は中国から茶の種を持ち帰り、喫茶の習慣を広めたことでも知られています。
問9	答え 3 御家人たちの領地をめぐる争いを、武士社会の慣習などに基づいて公平に裁判するため	承久の乱の後、地頭の補任が増えたことで、貴族や寺社と武士との間で領地をめぐる紛争が急増しました。これに対し、執権の北条泰時は、道理やそれまでの武士社会の慣習を基準とした明確な裁判の基準を示すことで、不公平な判決をなくし、武士たちの不満を解消しようしました。当初は借金の帳消し（徳政）などを目的としたものではありません。
問10	答え 1 荘園や公領ごとに配置され、土地の管理や年貢の徴収、地域の警察の役割を担った。	源頼朝は、対立した源義経の搜索を理由として、全国の荘園（貴族や寺社の私有地）や公領（国が管理する土地）に地頭を置く権利を朝廷から獲得しました。これにより、幕府の支配力が地方の土地や年貢の管理にまで及ぶようになりました。なお、国ごとに置かれたのは守護、京都で朝廷を監視したのは六波羅探題です。
問11	答え 4 随筆：徒然草	鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての社会の変動期に、兼好法師によって書かれた作品は『徒然草』です。これは清少納言の『枕草子』、鴨長明の『方丈記』と並び、日本三大随筆の一つに数えられます。作者の兼好法師は出家した身であり、仏教的な無常観を背景に、当時の人々の生き方や自然の美しさを独自の視点で描きました。
問12	答え 2 源氏の正統な将軍が3代で途絶えた後、北条氏が将軍を補佐する立場として実権を握ったから。	鎌倉幕府では、源頼朝から始まる源氏の将軍が3代で途絶えました。そのため北条氏は公家や皇族から幕府のトップとして将軍を迎え、自らはそれを補佐する執権として幕政の実権を握りました。
問13	答え 2 座禅によって自力で悟りを目指す教義が武士に好まれ、禅宗が政治権力と深く結びついていたため。	足利義満の時代の文化は、公家文化と武家文化が融合した北山文化と呼ばれます。金閣はその象徴であり、貴族風の寝殿造と武士に好まれた禅宗様（仏殿造）が一体となっています。義満が禅宗の様式を重要視したのは、単なる個人の信仰だけでなく、幕府が禅宗寺院を管理・保護することで、政治的な権威と高い教養を背景とした文化的な統治力を示す目的もありました。